

地方自治体のみなさまへ

平素より弊社事業にご理解・ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。  
株式会社ワイヤレスゲート代表取締役社長 CEO の濱 暢宏です。

今回「逆プロポ」を活用させていただき、地方自治体公益の一助を担う機会をいただけたことを嬉しく思っております。みなさまからのエントリー開始に先立ちまして、弊社が「逆プロポ」参加に至った思いについてお伝え申し上げたいと思います。

私には一つの原体験があります。25年前の大学在学時のことです。毎年冬休みになると山形蔵王の温泉旅館で住み込みのアルバイトをしていました。毎日満室で多忙でしたが、いつも美味しい賄い飯を食べさせてくれる、ニコニコ笑顔の女将さんのために必死で働いていました。それから10年後に久しぶりに蔵王を訪れるとピーク時期なのに温泉街は閑散。大学在学時には160万人程度だった冬季観光客がそのころは50万人程度まで減少。女将さんの寂しそうな顔を見て奮起しました。蔵王リバイバルプランを立て、観光協会や山形県知事にプレゼンを重ね、東京の仲間を誘いバスツアーを企画して蔵王の良さを伝える活動を行いました。だけど、そこまででした。想いはあっても、持続可能な施策を何一つ実行することができず、観光客離れの流れを止められず、女将さんの笑顔を取り戻すことはできず、無力感に苛まれました。

次の機会に備えて自身の実力をつけたいと思い、ビジネススクールで経営学(MBA)を学び、様々な業界に身を置いて実績を重ねましたが、そのまま蔵王とは疎遠になりました。頭の片隅でいつも蔵王を思いつつ、月日は流れます。女将さんは昨年他界したと聞きました。「もう少し早く何かやれなかったかな」という心残りは万年雪のように消えません。女将さんに「恩返し」をすることは二度と叶いませんが、「恩送り (pay it forward)」は私にもできるかもしれない。その機会が今回の「逆プロポ」です。ここでお会いするどこの誰かを笑顔に変える、持続可能な施策の一つでも実行することができたらとそんな想いを胸に秘めております。

地方を取り巻く現在の環境は、構造的な人口減少による経済苦戦が続き、長引くコロナ禍にて人の接触や密を避ける心理が広がっていると認識しております。経済復興のキーワードとしてロボットやIoTなどが人の代替労働力として注目されており、それらを動かす無線通信としてローカル5GやBWAなど安全な通信ネットワーク環境への期待が高まっております。弊社は2004年の創業以来、大手通信キャリア様が構築した通信インフラを活用し、お客様のニーズに合わせた商品開発・販売・運用等を通じて無線通信普及の一助を担って参りました。通信事業の実績と知見をもっている会社であり、みなさまの経済復興を含めた課題解決にお役に立つことができると確信しております。

「逆プロポ」にてお会いするみなさまとの一期一会のご縁を大切に、みなさまの課題解決をご一緒に一人でも多くの方の笑顔を生み出せるように全力で取り組みたいと思っております。多くのエントリーを心からお待ちしております。

2021年3月26日

株式会社ワイヤレスゲート  
代表取締役社長 CEO  
濱 暢宏